（別紙様式4）

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和4年7月31日 ※1
（前回公表年月日：令和3年7月31日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
横浜医療情報専門学校	昭和63年9月30日	岩崎　文裕	〒　222-0033 （住所）神奈川県横浜市港北区新横浜2-4-10 （電話）045-474-2311
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人岩崎学園	昭和26年3月8日	岩崎　文裕	〒　220-0004 （住所）神奈川県横浜市西区北幸1-2-7 （電話）045-311-5561

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
医療	医療専門課程	医療IT科	―	平成25年文部科学省 告示第6号

学科の目的	IT技術、医療情報システム、医学の基本的な知識と実践スキルを持つとともに、医療現場での情報管理及び活用、医療情報システムの開発などに携わることのできる技術者を育成すること。
認定年月日	平成29年2月28日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	3600	2565	1335	0	0	0 時間

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内	専任教員数	兼任教員数	総教員数
80人	48人	0人	3人	6人	9人

学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準：　評価点60点以上が合格又は認定 評価の方法：　出席状況、単位認定試験の得点および授業内平常点（課題・作品提出等）から算出
長期休み	■学年始：4月1日～4月5日 ■夏　季：8月1日～8月31日 ■冬　季：12月25日～1月7日 ■学年末：3月21日～3月31日	卒業・進級条件	卒業要件： 卒業学年で、所定の全教育課程を修了したと認められた場合 進級要件： 進級学年で、所定の全教育課程を修了したと認められた場合
学修支援等	■クラス担任制：　有 ■個別相談・指導等の対応 事情に応じ、家庭への電話連絡、個人面談、保護者との連携、専門家によるカウンセリングを実施	課外活動	■課外活動の種類 （例）学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学園で実施しているプログラミングコンテスト「ISCプロコン」、外部機関の実施している各種コンテストへの参加を奨励。医療情報分野・IT分野の各企業へのインターンシップ参加を奨励。 ■サークル活動：　有
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等（令和3年度卒業生） 医療情報システムの開発・運用管理・販売を行う業界に就職 医療情報システムを導入・運用・保守管理を行う医療業界に就職 ■就職指導内容 医療業界とIT業界について学び、求められる人材像などを理解し上で、個人面談で学生の資質や就職先希望などを具体的に絞り込み履歴書作成、面接指導などを行っていく。 ■卒業者数　17　人 ■就職希望者数　17　人 ■就職者数　17　人 ■就職率　100　% ■卒業者に占める就職者の割合 ：　100　% ■その他 （令和　3 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報） ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等） ■自由記述欄 （例）認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 2021年度ICON準優勝

資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
診療情報管理士	③	17人	8人
医療情報技師	③	17人	6人

中途退学の現状	■中途退学者　2 名　■中退率　4 % 令和3年4月1日時点において、在学者57名（令和3年4月1日入学者を含む） 令和4年3月31日時点において、在学者55名（令和4年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 学費難のため就職、進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 学生の様子（出席状況、授業態度、交友関係、小テストの成績等）を週次の担任会議で共有し、注意を要する学生に対する支援策を都度実施している。また、臨床心理資格を有する専任カウンセラーを設置している。

経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：　有 ※有の場合、制度内容を記入 ・岩崎学園奨学生 ・岩崎学園震災特別対応基金制度 ・岩崎学園専門学校授業料減免制度 ■専門実践教育訓練給付：　非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 ・岩崎学園奨学生 ・岩崎学園震災特別対応基金制度 ・岩崎学園専門学校授業料減免制度
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：　無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体：　受審年月：　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ
当該学科のホームページURL	https://iscs.iwasaki.ac.jp/index.html

（留意事項）
1．公表年月日（※1）
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2．就職等の状況（※2）
「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。
③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。
※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。
（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。
（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3．主な学修成果（※3）
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

・医療情報技師、医療情報システム開発者として社会が求める人材を見極めるため、業界や企業、病院を代表する教育課程編成委員の意見を参考として、科目の配置や改定を行う。
・実務者の助言を踏まえ、医療情報に関する最新の技術動向をカリキュラムに組み込むとともに、現行カリキュラムの陳腐化した単元の速やかな置き換えを図る。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

・学科の教育内容や指導方法が職業実践的な内容であることを確認し、時代の要請に合ったものとして改善できるよう教育課程編成委員会を設ける。
・本委員会は学校長の直轄機関として、横浜医療情報専門学校の委員会組織として位置づける。
・同委員会においてカリキュラムに取り入れるべき技術要素の提案および現行カリキュラムの改善点の指摘を受け、それらを踏まえたうえでカリキュラム検討会議を開催し協議を行い、指摘事項を教務部長より学校長へ提案および報告を行う。その後、学校長の決議を経て、次年度変更事案についてカリキュラム会議を開催し、指摘事項に基づく変更事案についての次年度カリキュラムへの展開方法を審議し決定する。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
真野　誠	一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	①
齋藤　彰	東京医科大学	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	②
神崎　昭悟	株式会社カケハシ	令和4年4月1日～令和6年3月31日（2年）	③
平塚　智文	学校法人岩崎学園横浜医療情報専門学校	―	
山田　典弘	学校法人岩崎学園横浜医療情報専門学校	―	
中村　健	学校法人岩崎学園横浜医療情報専門学校	―	
小野山　隼人	学校法人岩崎学園横浜医療情報専門学校	―	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）
年2回　（5月～8月、9月～12月）

（開催日時（実績））
第1回　令和3年8月24日　16：00～17：00
第2回　令和4年2月9日　16：00～17：00

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・医療情報技師を目指すとなると、病院で働くことがベストになる。そうなると患者の目線になって考えられる思考力が必要。病院や薬局に行ったときに、もっとこうなったらいいのに…と患者の立場になって考えてみるワークを行うと良いのではないか⇒多角的に物の見方ができる力を着ける授業を取り入れていく。
・病院経営やデータ活用を学ぶ授業があると良いと思う。特に、データの活用方法知っているかいないかで院内SEとしてのキャリアも違ってくる⇒今後の授業内容検討課題とする。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
・実践的な専門力育成のため、業界で標準的に用いられている機器を組み合わせた実習環境を整備 したうえで、企業が直面する課題に基づく実習型トレーニングを多く取り入れる。
・実務を想定したケーススタディ型の演習を取り入れることで、クライアントを意識した業務の進め方、 不測の事態への対応等、内部科目だけでは修得が困難な実践力の育成を図る。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
連携の内容としては以下のものを含める。
・実務を想定した実習環境の提供　・実務を想定したケーススタディ型教材の開発・提供
・実務者による授業等の講師・実施協力　・実務での要求レベルを踏まえた学修到達目標の設定
・上記到達目標を踏まえた課題/試験等の作成および学修成果の評価

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
社会人準備 注：令和2年4月1日よりカリキュラム変更を行ったため、「授業科目等の概要」との科目名が異なる。	ビジネスの場で必要とされる能力には、これまで身につけてきた基礎学力や専門知識の他に「社会人基礎力」と呼ばれる能力があります。それは、職場で（1）前に踏み出す力、（2）考え抜く力、（3）チームで働く力です。この授業ではこの三つの力を身につけるため学習します。	株式会社ハッピーコム

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
諸規定に定めている通り、研修・研究への参加を下記のように実施していく。
教職員の研修を通じ、業界や企業が求める実務知識や効果的な指導方法を習得し、教育内容や指導方法に反映することを目的とし、以下の内容の研修を少なくとも年間1回は受講することとする。
・技術研修　・企業連携研修　・コンテストや展示会見学　・企業や業界等での講義実施
・教育指導方法に関する研修　・入学者の動向調査　・その他能力向上として相応しいもの
教職員は、各自の年度目標作成時に1回以上の研修受講計画を記載し上長に報告する。上長はその実現に向け業務上の支援を行う。研修内容は、本人の希望のみならず、学校として本人の能力育成に相応しいものを推薦、指示する場合を含む。研修受講後は、研修参加報告書を作成し教務部長へ報告を行う。

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：「医療情報学連合大会 DX後のNew Normalな医療を考える　～「出来ない」から「出来る」へ～」　連携企業等：名古屋大学医学部付属病院
期間：R3年10月19日（火）～10月22日（金）　対象：中村健、山田典弘、平塚智文
内容　医療情報学会に参加し、最新の情報に触れ学術的知見を深める。

研修名：ロボテラス見学　連携企業等：神奈川県専修学校各種学校協会
期間：R4年1月14日（金）　対象：小松加代子、秋山貴志、平塚　智文
内容　それぞれの分野のロボットを間近に見学し、実際に体験する事により、ロボット技術（IT技術）と人の生活がこれから密着していく世界を知る。

研修名：第13回　教育　総合展　連携企業等：RX Japan株式会社
期間：2022年5月11日（水）～13日(金)　対象：山上紀彦、中村健、平塚智文
内容　最新の学校設備、ICT機器の調査。授業に活用できるSTEAM教育教材の把握。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	ビジネス文書研修（応用編）	連携企業等：	（株）インソース
期間：	令和4年3月7日／3月30日	対象：	平塚　智文
内容	参加目的 ビジネス文書作成・指導スキル習得を目指す。		

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	CEATEC JAPAN 2022	連携企業等：	CEATEC JAPAN 実施協議会
期間：	R4年10月18日（火）～10月21日（金）	対象：	中村健、平塚智文
内容	アジア最大級のIT系展示会「CEATEC JAPAN」。国内IT企業、アジア他のIT系企業、アカデミックなどによる作品や研究成果の展示と発表が行われる。		
研修名：	第42回医療情報学会（社会基盤としての医療情報の役割）	連携企業等：	北海道大学
期間：	R4年11月17日(木)～20日(日)	対象：	中村健、平塚智文
内容	医療情報学会に参加し、最新の情報に触れ学術的知見を深める。		
研修名：	モダンホスピタルショウ2023	連携企業等：	日本経営協会
期間：	R5年7月12日～14日	対象：	山上紀彦、中村健、平塚智文
内容	国内の医療システムの展示会の見学を行い、最先端技術動向を知る。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	コーチング研修（応用編）	連携企業等：	（株）HRインスティテュート
期間：	令和4年8月18日／9月1日	対象：	平塚智文
内容	参加目的 コーチングスキル習得を目指す。		
研修名：	時間がなくてもできる文章指導	連携企業等：	公益財団法人　日本漢字能力検定協会
期間：	令和4年10月7日	対象：	中村健
内容	効率的な学生への文章指導能力の学習をする		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針
学校運営について、企業委員等を含む5名の委員により以下に関する意見を求める。
①本校の教育目標、教育方針、教育計画に関すること　②教育活動の実施に関すること　③学校と地域の連携の進め方に関すること　④その他本校の学校運営に関すること。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	・理念・目的・人材育成像は定められているか （専門分野の特性が明確になっているか） ・学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調整しているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか ・学校における職業教育の特色は明確になっているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか
（2）学校運営	・専修学校設置基準及び職業実践専門課程認定要件に沿った適切な運営がなされているか ・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・目的等に沿った事業計画が策定されているか ・事業計画に沿った運営方針が策定されているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・専任教員は適正に配置されているか（専任教員や非常勤講師の週当たりの担当コマ数などの講義・実習負担は妥当であるか） ・教職員と非常勤講師等との定期的な情報共有を図っているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか ・教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか ・学生の保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応など、不適合を特定し、対処する手順（予防処置及び是正処置）を確立しているか ・利害関係者が不満を抱いている場合や、利害関係者と学校側とで意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか

（3）教育活動	・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・講義および実習に関するシラバスは作成されているか （学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか） ・シラバス（作成されていればコマシラバス）には到達目標が記載されているか（Can-Doを意識した到達目標の明示） ・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか ・シラバスあるいは講義要項（作成されていればコマシラバス）は事前に学生に配布され、授業で有効活用されているか ・実技・実習が講義と連動するなど、効果的学習に配慮されているか ・カリキュラムに関し、定期的に外部者（IT企業、情報系業界団体等）の評価や意見を取り入れているか ・実技・実習に先立って、職業倫理や情報の取扱いに関する規程・マニュアルや規則（情報セキュリティ、個人情報の管理・取扱い、著作権、SNSの利用等）が整備され、公表されているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・カリキュラムの作成・見直し等に関し、外部関係者からの評価や意見を取り入れているか ・閲覧権限の設定がなされ、個人情報保護への配属がされているか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか ・専任教員による相互評価など、適切な評価体制を有し、授業評価を行っているか ・教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況（学習環境等）を確認・検証しているか ・教職員のコンピテンシーを職務記述書と関連付けながら評価し、それらの評価結果を記録しているか ・教職員に対する専門分野（IT分野及び関連分野）に応じた能力開発のための研修制度ないし機会はあるか。（研修等の効果を評価し、文書により記録しているか） ・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか

（4）学修成果	・学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか ・目標とする資格試験への合格率はどうか ・卒業生の就職率はどの程度か ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか（卒業生の就職後の動向を出来るだけ把握し、卒業後にも就職その他の支援を行っているか） ・評価目標ならびに想定される評価範囲を記述できているか ・学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか ・成績証明書等、評価結果が社会的通用性を高める形式になっているか ・ニーズ調査結果に基づき目的（到達目標）を設定し、目的に対する評価を結論としてとりまとめた評価報告書を作成しているか ・学習サービス（教育・訓練）を受託または委託する場合、目的、要望、最終目標及び要件を明確にしているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
（5）学生支援	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・保護者と適切に連携しているか ・社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・卒業生への支援体制はあるか ・図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境の支援は行われているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育、職業教育の取組が行われているか
（6）教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか（講義室は学生数、時間割にあわせ、無理なく配備されているか。またその大きさは学生数に見合ったものであるか） ・カリキュラム上必要となる実習に用いる器材及びソフトウェア等を使用できる実習環境が備わっているか。また必要な数のライセンスが準備されているか（詳しくは別表参照） ・学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか ・実習室等の学校施設、設備の利用割り当て（スケジュール管理）が明確になっているか ・教職員に対して、学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか ・防災に関する体制は整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

（7）学生の受入れ募集	・学生募集活動は、適正に行われているか（例えば、入学願書などの契約書を取り交わし、それらの文書を適切に管理しているか） ・履歴書（学歴、所有資格など）を適切に入手し、適切な管理を行っているか ・学校案内等には選抜方法など、入学に必要なスキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか ・学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか ・学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているか ・教育の履行、人的・物的資源の提供、個人情報の取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか ・学納金は妥当なものとなっているか
（8）財務	・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
（9）法令等の遵守	・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・文書管理規程、文書管理リスト（ファイル管理簿）ならびに決裁の流れを含む決裁規程（文書処理規程）が文書化されているか ・自己点検・評価や内部監査の実施と問題点の改善に努めているか ・監査や評価基準の知識を有する適任者により適切に監査され、当該課程・部署の責任者に監査結果を報告しているか ・内部監査での指摘事項として、改善すべき点を明確にしているか ・内部監査の結果を受けて取られる処置が、適切な時期及び適切な方法で実施されているか ・自己点検・評価結果を公開しているか
（10）社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか
（11）国際交流	・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

令和3年度学校関係者評価からの提言で、卒業生が在校生に向けて医療機関の仕事の内容を話す機会を設けたことに評価を頂けたため、今後もその試みを継続し、現在の医療現場で起きていることに触れる機会の増加を図る。

本校の魅力としてITの学習ができるというブランド力を前面に打ち出し学生募集等を行っている。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
中村　ふじ	神奈川県総合教育センター　教育人材育成課	令和3（2021）年4月1日より令和5（2023）年3月31日	地域等
二宮　克行	医療法人社団　顕鐘会神戸百年記念病院	令和3（2021）年4月1日より令和5（2023）年3月31日	企業等
真野　誠	一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	企業等
神崎　昭悟	株式会社カケハシ	令和4年4月1日～令和6年3月31日（2年）	卒業生
奈良谷　歩	保護者代表	令和4年4月1日～令和6年3月31日（2年）	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

（ホームページ　・　広報誌等の刊行物　・　その他（　　））

URL:　https://iscs.iwasaki.ac.jp/info_disclosure/

公表時期:　令和4年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠し、毎年「自己点検評価、学校関係者評価」を実施。評価結果を学校ホームページで公開するとともに、年次ごとに更新を実施。また、「専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」に準拠し、公開を求められている全ての項目について、学校案内、学生募集要項、学校ホームページのいずれかによって情報提供を行っている。」

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	・学校の特色
（2）各学科等の教育	・資格サポート制度 ・学科コース紹介
（3）教職員	・教員に関する情報公開
（4）キャリア教育・実践的職業教育	・実習室紹介 ・就職サポート制度
（5）様々な教育活動・教育環境	・年間スケジュール、フォトギャラリー
（6）学生の生活支援	・岩崎学園震災特別対応基金制度
（7）学生納付金・修学支援	・学費
（8）学校の財務	・事業報告書、監事監査報告書、資金収支計算書 活動区分資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表 財産目録
（9）学校評価	・自己点検評価報告書および学校関係者評価会議事録
（10）国際連携の状況	
（11）その他	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法

（ホームページ　・　広報誌等の刊行物　・　その他（　　））

URL:　https://iscs.iwasaki.ac.jp/info_disclosure/

公表時期:　令和4年9月30日

授業科目等の概要

	（医療専門課程医療ＩＴ科）															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ロジカルライティングIT1Ⅰ	校外研修、グループワーク、マナー、就職対策等の演習を通して専門学生としての学び方の姿勢の基礎を身に着ける事を目指します。	1	45	3	○	△		○		○		
2	○			人体・構造機能論Ⅰ	医療業界向けエンジニアとして、基礎医学を学ぶ事を通して、生命の成り立ちを学習します。医療従事者としての基礎を身に着ける事を目指します。	1	30	2	○	△		○		○		
3	○			コンピュータシステム基礎	アルゴリズム、各種プログラミング言語、Webアプリケーション等を題材としたプログラミング技術を学びます。	1	60	4	○			○		○		
4	○			ネットワーク	ネットワークを構成するさまざまな要素について学ぶとともに、ネットワークを実現するための基礎的な技術についても学習します。	1	30	2	○	△		○		○	○	
5	○			データベース	データベース中の膨大な情報の中から自分に必要な情報を取り出し、分析するための方法を学びます。	1	30	2	○	△		○		○	○	
6	○			情報化と経営	現実に即して問題を正確に分析するために必要となる企業と法務、経営戦略、システム戦略に関する基礎知識について学習します。	1	45	3	○	△		○		○	○	

7	○			システム開発	システムを開発の作業工程を理解するのに必要な基礎知識を学びます。	1	30	2	○	△		○		○	○	
8	○			ITストラテジ基礎	ITパスポート試験の合格に向けた授業です。ITパスポートの過去問題を解きながら、学習を進めていきます。	1	30	2	○	△		○		○	○	
9	○			アルゴリズム基礎	プログラミングに必要なデータ構造や処理の流れについて、基礎的な部分を学習します。また、物事を論理的に考える力も学んでいきます。	1	60	4	○	△		○		○	○	
10	○			アルゴリズム演習	アルゴリズム基礎で学習した内容をさらに発展させた内容を学習します。また、基本情報技術者試験の午後問題に出題されるアルゴリズムの内容も過去問演習を通して学習します。	1	15	1	○	△		○		○		
11	○			ITエンジニア入門	アルゴリズム、各種プログラミング言語、Webアプリケーション等を題材としたプログラミング技術を学びます。	1	45	3	○	△		○		○		
12	○			情報基礎理論	マネジメント系での未学習分野と復習、テクノロジ系の総復習を実施し合格に向けての基礎力アップを目指していきます。	1	30	2	○	△		○		○		
13	○			ロジカルライティングIT1Ⅱ	校外研修、グループワーク、マナー、就職対策等の演習を通して専門学生としての学び方の姿勢の基礎を身に着ける事を目指します。	1	45	3	○	△		○		○		
14	○			プレゼンテーション技法	プレゼンテーションに関する技法をPowerPonitを利用しながら学びます。	1	30	2	○	△		○		○		

15	○			医療用語基礎	医療業界向けエンジニアとして、医学で使われる基礎用語を学びます。医療従事者としての基礎を身に着ける事を目指します。	1	30	2	○	△		○		○		
16	○			医療情報システム基礎	医療情報システムに関する基礎知識を学ぶ。	1	30	2	△	○		○			○	
17	○			情報セキュリティ入門	ITの利用者、初歩的な開発者として情報セキュリティの必要性から分類、技術について学びます。	1	45	3	○	△		○		○		
18	○			アプリケーション開発入門	アプリケーション開発方法の初歩を学びながら、簡単なプログラミングを学びます。	1	45	3	○	△		○		○	○	
19	○			IT技術基礎	世の中で昔から有用に使われている技術や新しく現れた技術を調べる、プログラミングの基本となる言語や各種開発環境を試す、やりたいことを実現するためのアルゴリズムを考えたり調べたりする、などの方法について実践的に学びます。	1	45	3	○	△		○		○	○	
20	○			アプリケーション開発応用	自分でものづくりをする面白さを学ぶとともに、アプリ開発を行う上で基本的な技術を習得する。	1	45	3		○		○		○	○	
21	○			アプリケーション開発演習	アプリ開発を通して、基本的な技術習得を進め、応用力もつけていきます。	1	45	3		○		○		○	○	
22	○			アプリケーション開発実践	これまで作成した作品の発表会に向けて、調整や不足している開発部分を引き続き行う。	1	45	3		○		○		○	○	
23	○			Office操作演習	Officeソフトを扱いながら、基礎的な知識を学習します。	1	45	3	○	△		○		○		

24	○			ロジカルライティングＩＴ２Ⅰ	1年次に習得した文章作成力を活かし、実務で必要な業務文書を的確にまとめる技術の習得を目指します	2	60	4	○	△		○		○		
25	○			Javaプログラミング基礎	様々なタイプのアプリケーション開発を実習しながら、Java言語の特徴や長所・オブジェクト指向によるプログラム開発を学びます。	2	60	4	△	○		○			○	
26	○			Webアプリ基礎	HTML5および カスケーディングスタイルシートをベースとして、Webページの基本的な作成技術を習得した上で、さらにPHPを習得し、Webアプリケーションを構築する手法を身に付けます。	2	60	4	△	○		○			○	
27	○			オブジェクト指向設計	顧客が満足するシステムを開発するために、UMLを用いたオブジェクト指向分析・設計技法をこれまで学習してきたJavaと連携させて、学習する。	2	45	3	△	○		○			○	
28	○			医療システム基礎Ⅰ	医療情報システムの必要性、さまざまな医療情報システム、患者情報等の医療情報の特性を学習し、病院という医療現場の観点から、病院情報システムの要求分析、設計開発、運用まで実践的に理解する。	2	60	4	△	○		○		○		
29	○			医療情報システム導入管理Ⅰ	１病院組織の役割とシステム導入の概要 ２医療情報システムの概要 ３地域医療連携システム導入管理 について学習する。	2	45	3	△	○		○			○	
30	○			医学・医療Ⅰ	医の倫理・患者の人権、生命倫理などの医の基本原則、社会的側面から見た医療に関する知識、日本の医療提供の仕組みと関連法規、病院の組織構造と機能、地域における保健医療連携について学習する。	2	75	5	△	○		○			○	
31	○			人体・構造機能論Ⅱ	１年に引き続き医療業界向けエンジニアとして、基礎医学を学ぶ事を通して、生命の成り立ちを学習します。医療従事者としての基礎を身に着ける事を目指します。	2	45	3	○			○		○		
32	○			ロジカルライティングＩＴ２Ⅱ	Ⅰに引き続き1年次に習得した文章作成力を活かし、実務で必要な業務文書を的確にまとめる技術の習得を目指します	2	15	1	○	△		○		○		
33	○			システム設計開発	これまで学んできたHTML、PHP、Java言語およびオブジェクト指向設計でのクラス設計をベースに、Google App Engineを利用したクラウドアプリケーションを作成しながら、システムを作成するために必要な流れや手法を理解し実践します。	2	60	4	△	○		○			○	
34	○			Android プログラミング	Android OS上で動作するアプリケーションの開発手法を学び、様々な機器に向けてのソフトウェアの作成ができるようになる知識と技術を演習形式で学ぶ。	2	60	4	△	○		○			○	
35	○			実践プログラミング	これまで学校でならった、プログラミング技術や知識を使って実践的なプログラムを行う。	2	15	1	△	○		○			○	

36	○			医療情報システム導入管理Ⅱ	Ⅰに引き続き １病院組織の役割とシステム導入の概要 ２医療情報システムの概要 ３地域医療連携システム導入管理 について学習する。	2	45	3	△	○		○			○	
37	○			臨床医学各論Ａ	感染症の原因となる細菌、ウィルスなどについての知識を修得し、各感染症の特徴、症状・所見、診断法、治療などの知識を深め、感染症患者の各種診療記録の内容を理解する。	2	45	3	○			○			○	
38	○			臨床医学各論B	血液・造血器、栄養・代謝、内分泌系等の障害、と神経系の疾患、眼、耳、「精神および行動」の障害など感覚系疾患により、病態が全身に関わる各疾病について、それらの特徴と症状・所見、診断法、治療法等を学ぶ	2	45	3	○			○			○	
39	○			臨床医学各論D	腹部に位置する各種臓器（消化器系、泌尿器系）疾病、身体の形態、皮膚運動器に関わる骨、筋肉、関節、などの疾病について、その特徴、症状・所見、診断法、治療法の概要を学び、各種診療記録の記載などを理解し、適切な病歴診断名につなげる知識の習得する。	2	45	3	○			○			○	
40	○			臨床医学各論Ｅ	周産期疾病について、その特徴、症状・所見、診断法、治療法の概要を学び、各種診療記録の記載などを理解し、適切な病歴診断名につなげる知識の修得をする。また“妊娠の成立”から母体の変化、胎児の発育、分娩までの基本を学び、さらに、周産期の障害と感染症、胎児・新生児に関わる障害などを理解する。	2	30	2	○			○		○		
41	○			臨床医学各論F	新生物の発生組織・臓器、良性・悪性、原発性、続発性、転移性等新生物の概要を理解するとともに、わが国における主要な新生物を中心に、新生物の多彩な診断法、治療法を学び、適切なＩＣＤ分類に結びつく基本的知識を習得する	2	45	3	○			○			○	
42	○			医療統計学	診療記録に含まれる各種の情報を活用する手段の一つとして、統計的方法による分析の基礎と視覚化の方法を学習する。	2	45	3	○			○		○		
43	○			ロジカルライティングＩＴ３Ⅰ	社会人準備として必要なコミュニケーションスキルを学校行事やイベントを通じて学ぶ。	3	15	1	○	△		○		○		
44	○			医療システム基礎Ⅱ	医療情報システムに関することを学習する。具体的には、保健医療福祉の現場で稼働する情報システムの企画開発・運用保守・情報活用を担当する技術者や管理者として、医療情報システムに関する実務的な基礎知識、基礎技術力を身につける	3	45	3	○	△		○		○		
45	○			ITインフラ基礎	医療情報分野の基礎となる情報系インフラを学習するにあたりコンピュータの基礎、ネットワーク技術、データベース技術について復習する。	3	45	3	○	△		○		○		

46	○			医療管理各論	病院を的確に維持、運営していく上で需要な項目について、基礎的な知識を身につける。病院の使命を達成するために、経営管理、医療管理、医療の質の管理について学ぶ。	3	45	3	○			○			○	
47	○			診療情報管理論	「診療情報」が医療においてどのような価値をもっているかを学び、診療情報管理の重要性について理解を深める。さらに、国内外における診療情報管理の歴史と診療情報管理士の教育について理解し、安心・安全な医療の提供、適切な診療情報管理の実践には、コンプライアンス(法令遵守)が重要であることから、診療記録、診療情報に係わる法規についての知識を習得する。	3	45	3	○			○			○	
48	○			医療概論	医学と医療に関する歴史的変遷を知ったうえで、医療の現状を理解する。社会保障制度の枠組みである「所得保障」「医療保障」「公衆衛生」「社会福祉」の原則と実態を知り、社会規範である関連法規の知識を得て、医療の社会的役割を総合的に理解する。	3	45	3	○			○			○	
49	○			臨床医学各論C	命の維持に直接関わる呼吸器・循環器系の疾病について、その特徴、症状・所見、診断法、治療法の概要を学び、各種診療記録の記載などを理解し、適切な病歴診断名につなげる知識の習得をする。	3	45	3	○			○			○	
50	○			臨床医学各論G	先天性疾患、外因性傷病等について、その特徴、症状・所見、診断法、治療法の概要を学び、各種診療記録の記載などを理解し、適切な病歴診断名につなげる知識の修得する。	3	45	3	○			○			○	
51	○			国際統計分類A	我が国の人口動態統計のしくみと意義を理解し、人口動態に用いられる国際疾病分類（ICD）についての理解を深め、その歴史と現状の状態を理解する。国際統計分類群（ファミリー）に属するその他の分類体系についての理解を深め、健康情報に関する幅広いコード体系についての意義と問題点を理解する。	3	45	3	○	△		○			○	
52	○			国際統計分類B	人体構造（解剖生理）、医学各論等で学習した知識を生かし、国際統計分類Aの学習と関連付けながら、ICD-10の各章に沿った疾病分類体系を学習し、その特徴を踏まえて統計として正しい分類ができるよう理解を深める。また、退院時要約や死亡診断書などを用いて診療記録の記載内容を把握し、主傷病等の診断名および原死因の統計上必要な分類コードを正確に選択できる知識を習得する。	3	45	3	○	△		○			○	
53	○			就職準備講座	就職活動（特に医療機関）に必要な情報をスキルを保健医療従事者の立場で学ぶ。	3	30	2	○	△		○		○		

54	○			ロジカルライティングＩＴ３Ⅱ	社会人準備として必要なコミュニケーションスキルを学校行事やイベントを通じて学ぶ。	3	15	1	○	△		○		○		
55	○			ビジネススキル基礎	ビジネスの場で必要とされる能力には、これまで身につけてきた基礎学力や専門知識の他に「社会人基礎力」と呼ばれる能力があります。それは、職場で（1）前に踏み出す力、（2）考え抜く力、（3）チームで働く力です。この授業ではこの三つの力を身につけるため学習し、演習し、話し合って進める。	3	45	3	○	△		○			○	
56	○			就職対策	履歴書対策、筆記試験対策、面接対策など、就職活動において実施される様々な試験に対応できるよう、十分な準備を行います。	3	45	3	○	△		○			○	
57	○			病院情報システム構築Ⅰ	病院における情報システムの開発・導入の問題点と対策について理解し、病院情報システムの導入の工程を学習します	3	45	3	○	△		○		○		
58	○	○		システム開発技術Ⅰ	これからセンサやデバイスを活用した「サービス全体の開発」を行なうエンジニアを対象にハードウェア、ソフトウェアを学びます。	3	90	6	○			○		○		
59	○	○		システム開発技術Ⅱ	医療情報セキュリティを確保するための様々な技術、ネットワークに問題が発生したときの情報収集と、その解決策を考えることができるための能力を養います。	3	90	6	○			○		○		
60	○	○		医療IT技術	医療IT技術の実務的な体験ができるインターン等に積極的に参加し、医療系ITエンジニアに必要な実践力を身に着ける。	3	120	8	○			○	○	○		
61	○	○		診療情報管理士試験対策Ⅰ	診療情報管理士試験の問題を講義と演習で学び、資格試験合格レベルへの知識向上を目指す。診療情報管理士教育問題集（基礎・医学編）を実施し、各問題の解説を行う。	3	90	6	○			○			○	
62	○	○		診療情報管理士試験対策Ⅱ	診療情報管理士試験の問題を講義と演習で学び、資格試験合格レベルへの知識向上を目指す。診療情報管理士教育問題集（専門・診療情報管理編）を実施し、各問題の解説を行う。	3	90	6	○			○			○	
63	○	○		診療情報管理士試験対策Ⅲ	診療情報管理士試験の問題を講義と演習で学び、資格試験合格レベルへの知識向上を目指す。診療情報管理士教育問題集（専門・8章～12章）を実施し、各問題の解説を行う。	3	120	8	○			○			○	
64	○			ロジカルライティングＩＴ４Ⅰ	社会人準備として必要なコミュニケーションスキルを学校行事やイベントを通じて学ぶ。	4	15	1	△	○		○		○		

65	○			ITインフラ応用	病院システムインフラを現役インフラエンジニアの視点で学習し、単なる用語理解に留まらず、日常業務の中で感じていることやちょっとしたノウハウ・スキルを身につけていきます。	4	45	3	○			○			○	
66	○			コンピュータと医療機器	病院でよく接する医療機器に絞り、学習していく。病院内の行為の流れ、つまり診察・検査・処置更に手術・集中治療などに沿って医療機器を説明すること、また診療科や機器が設置される検査室等の部署の情報について、病院の現場を想定して学習する。	4	45	3	○			○			○	
67	○			医療システム導入マネジメント	医療情報システムの導入場面でプロジェクトマネジメントの知識を習得し、目的達成のための実践力を身につける。	4	30	2	○			○			○	
68	○			医療標準規格	医療情報の２大標準規格であるHL7とDICOMについて学習する。	4	45	3	○			○			○	
69	○			IHE概論	IHEについて情報システムの企画開発・運用保守・情報活用を担当する技術者の立場で理解を深める。特に医療情報システムの構成・機能、導入・運用および医療情報の標準化などにも重点をおいて学習する。	4	45	3	○			○			○	
70	○			統計解析実習	フリーで高度な統計処理（多変量解析等）ができる統計ソフト「R」を使用し統計解析の演習をおこなう。	4	45	3	△	○		○			○	
71	○			データサイエンス	データ・サイエンティストにスポットを当て、データ・サイエンティストが何者で、データ・サイエンティストになるにはどのような知識が必要なのかを学習する。	4	45	3	○	△		○			○	
72	○			輪講演習Ａ	技術論文、雑誌記事など技術的文書を読み、その要約を文書としてまとめます。また、卒業研究に関するテーマについて文書を作成する。	4	45	3	△	○		○			○	
73	○			輪講演習Ｂ	論文として発表されている物を読み、書き方の技法を学習し、自ら簡単な論文を書く練習を行う。 論文作成に必要な調査の方法特にアンケートの技術について学ぶ。	4	45	3	△	○		○			○	
74	○			ゼミナール	ゼミナールで扱う分野、研究テーマ（最新技術の調査研究、産学連携によるプロジェクトベースラーニングなど）に従って、技術習得やシステム開発に取り組みます。	4	45	3	△	○			○		○	
75	○			ロジカルライティングＩＴ4Ⅱ	社会人準備として必要なコミュニケーションスキルを学校行事やイベントを通じて学ぶ。	4	15	1	△	○		○		○		
76	○			ビジネススキル実践	職場で（1）前に踏み出す力、（2）考え抜く力、（3）チームで働く力です。この授業ではこの三つの力を身につけるため学習する。	4	45	3	△	○		○			○	○

77	○			医療IT業界動向調査	医療機関のIT化が進むにつれ、医療機関及び医療IT企業での業務は劇的に変貌している昨今で、医療IT業界関係者と対等にコミュニケーションできる最新の情報を紹介していく。	4	30	2	○			○		○		
78	○			AI概論	ＡＩという新しい分野の概要と、その仕組み、歴史、および、医療への応用例を勉強する。実際にＡＩプログラミングの初歩を勉強する。	4	45	3	○			○			○	
79	○			医療リスクマネジメント	医療機関に求められているリスクマネジメントのすべてが、概念的にも方法論的にも理解できる能力を身につける。また、見過ごされがちな薬剤に関連したリスク、チーム医療に伴うリスク等も含めて学ぶ。	4	45	3	○			○			○	
80	○			医療関連法規	医療関連法規の各法律について学び、医療・介護分野で必要な法規について知識を広める。	4	45	3	○			○			○	
81	○			卒業研究	社会における課題を見出し、それを解決する方法を提案し、それを実証するためのシステム／データ等を制作する。制作したシステム／データ等を第三者に評価いただく。	4	225	15	△	○		○			○	
合計					81　科目			3600 単位（単位時間）									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	卒業学年で、所定の全教育課程を修了したと認められた場合	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	各科目の成績評価の際の判断基準として筆記試験、課題・作品提出または口頭試問を授業内もしくは別に定める試験期間内で実施する。	１学期の授業期間	15 週

（留意事項）

1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。